

第35回 民俗芸能と農村生活を考える会

雪おんな



熊本県山都町の郷土芸能より

「清和文楽」公演

せ い わ ぶ ん ら く

【開催日時】 令和7年 2月24日(月) 13:00開演(12:00開場)

【開催場所】 国立文楽劇場 (大阪府大阪市中央区日本橋)

主催 一般社団法人全国農協観光協会

後援 農林水産省／文化庁／観光庁／熊本県／熊本県山都町

一般社団法人全国農業協同組合中央会／熊本県農業協同組合中央会／上益城農業協同組合

一般財団法人地域伝統芸能活用センター／公益社団法人全日本郷土芸能協会

全国民俗芸能保存振興市町村連盟／株式会社日本農業新聞／株式会社農協観光



国立文楽劇場



寿式三番叟

一般社団法人 **全国農協観光協会**

<https://www.znk.or.jp>
zennoukan@i-znk.jp

【本所】

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-16-8 GEEKS AKIHABARA4階
TEL.03-5297-0321 FAX.03-5297-0260

【西日本事務所】

〒532-0011 大阪市淀川区西中島3-11-10 新三宝ビル4階
TEL.06-6195-3960 FAX.06-6195-3970

主催者挨拶

第35回民俗芸能と農村生活を考える会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。
今年で第35回となる本公演は、都市住民の皆様にも全国の農山魚村地域の伝統的な民俗芸能を紹介することにより、地域の農業と暮らし、伝統文化や歴史についての理解を深める、都市と農村の交流を促進し、地域活性化の一助となることを目的として開催しております。

今回は、熊本県山都町に伝わる人形浄瑠璃「清和文楽」を皆様にご紹介いたします。「清和文楽」は、美しい人形遣いと、心に響く三味線の音色、そして情感豊かな語りによって、観る者の心をつかえる伝統芸能です。この伝統芸能や第一部の「民俗芸能の背景をさぐる」を通じて、山都町の豊かな歴史と文化に触れ、民俗芸能と地域の暮らしを、ご来場の皆様とともに考えていきたいと思います。

民俗芸能は、地域の生活や文化に根ざし、神事や祭りなどによって地域住民を結びつける大切な地域の遺産となっています。この取り組みは地域資源ならびに地域の絆を次世代へと継承していくきっかけと考えています。我が国は少子高齢化の只中にあり、農山魚村地域でも人口減少の影響による「過疎化」は年々深刻化しております。そういった社会情勢の中、古くから伝承されてきた民俗芸能をどの様に、後世へ受け継いでいくべきか考えていく必要があります。この「民俗芸能と農村生活を考える会」がその機会となり、都市と農村の架け橋になることを切に願っております。

また、「民俗芸能と農村生活を考える会」が第35回を迎えることができましたのも、ひとえに各民俗芸能関係者の皆様とご来場された皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

本会は、今後もこれらの取り組みを通じて都市住民の皆様にも、地域の魅力を発信するとともに農山魚村地域に寄り添い、都市と農村の交流人口づくりや地域振興を支援してまいります。

結びに、今回ご協力いただきました熊本県山都町ならびに清和文楽関係者の皆様、さらに関係団体の皆様にも心より御礼申し上げます、挨拶とさせていただきます。



一般社団法人全国農協観光協会
代表理事会長 篠原 末治



文楽劇場公演によせて

熊本県山都町長 坂本 靖也



この度「第35回民俗芸能と農村生活を考える会」が盛大に開催されることを心よりお慶び申し上げます。

山都町は、九州のほぼ中央にあり、世界最大級の阿蘇カルデラ南外輪山の南麓一帯と、九州中央山地に接しています。町の標高は、200m～1700mに位置しており、標高300m～900mにある居住域は、平野部よりも平均気温が4度ほど低い準高冷地の気候が特徴です。

町の面積の72%が山林という自然に恵まれた山都町は、全国に先駆けて、1970年代から有機農業に取り組みなど、自然と共に暮らしを営んできた地域です。2021年には、この有機農業による持続可能なまちづくりが評価され「SDGs 未来都市」に選定されました。山都町で昔から育まれてきた、自然の力を生かす農村の暮らしや知恵は、SDGsにも大きく貢献できるものと考えています。

誰もが「住みたくなる」「住み続けたい」安心して生きがいを実感できる「山の都づくり」の実現に向けて取り組んでいます。

山都町のシンボルでもある通潤橋は、水に乏しかった白糸台地一体に農業用水を送るために造られた近世最大級の石造アーチ水路橋であり、石造アーチ橋の中で唯一、放水ができる橋です。今もなお白糸台地の棚田を潤しています。2023年（令和5年）に国宝に指定されました。

山都町の魅力の一つとして、清和文楽（人形浄瑠璃）をはじめ、地域が豊かで平和であるようにと折りを舞う神楽や、大造り物が商店街を練り歩き五穀豊穡を願う八朔祭など、山都町には様々な伝統芸能や祭りがあります。中でも、熊本県重要無形文化財である清和文楽は、170余年前この地を訪れた淡路の人形芝居の二座から技術を習ったのが始まりといわれています。現在も春には、農作物の豊作を祈願して、秋には収穫の感謝を込め国の登録有形文化財でもある大川阿蘇神社農村舞台で、奉納芝居が催されています。

結びに今回清和文楽の公演と併せて、山都町を紹介する機会をいただきました関係者の皆様に、心より感謝申し上げますとともに、本日の公演の御盛会をご祈念申し上げます。

プログラム

第35回民俗芸能と農村生活を考える会

熊本県山都町の郷土芸能より

清和文楽 せいわぶんらく

13:00 開会・あいさつ

13:10 【第一部】

民俗芸能の背景をさぐる
熊本県山都町について

プレゼンター
春岡 由美さん

休憩時間（約20分）

14:00 【第二部】

民俗芸能の特別公演「清和文楽」
「寿式三番叟」「雪おんな」

15:30頃 閉会



清和文楽「雪おんな」



蘇陽峽



満点の星空



白糸台地の棚田



通潤橋

山都町

風かおる
文楽と石橋の郷

やま と ち ょ う

山都町

山都町の概要

九州(沖縄県及び離島を除く)のほぼ真ん中に位置していることから、「九州のへそ」を商標登録しており、全国へそのまち協議会に参加している。町域は東西約33キロメートル、南北約27キロメートルにおよび、面積は544.67平方キロメートルで、熊本県内市町村で3番目の広さを誇る。世界最大級の阿蘇カルデラを形成する南外輪山のほぼ全域をおさめ、南側は九州山地に接している。一級河川である五ヶ瀬川、緑川は町内の山間部にある水源を源流とし、分水嶺を境にそれぞれ東西に流れている。標高は約200メートルから1700メートルに位置しており、準高冷地の気候を利用した夏秋野菜の産地である。町の中心部の南を流れる緑川の右岸には白糸台地があり、良質な湧水(通潤用水)を引き込むために造られた通潤橋がある。1991年(平成3年)に「美しい日本のむら景観百選」、2006年(平成18年)に「疏水百選」、2014年(平成26年)に初代の「かんがい施設遺産」などの選定を受けている。また、水の郷百選(「虹の橋」立つうるおいの郷)に認定されている。

山都町のシンボルとして多くの人に愛されている通潤橋は、嘉永7年(1854年)、水不足に悩む白糸台地に水を送るため、矢部の惣庄屋・布田保之助によって造られた近世最大級の石造アーチ水路橋であり、石造アーチ橋の中で唯一放水ができる橋です。水路の長さ約119・0m、橋の長さ約78・0m、橋の幅6・6m、橋の高さ約21・3m、アーチの半径約28・1m、約6km離れた笹原川の上流から水を引き、水路の総延長約42km、灌漑面積は約100haにも及びます。一昼夜で15、000立方メートルの水を送り、水田を潤す力を備えており、現在も白糸台地の棚田を潤しています。2023年(令和5年)に国宝に指定されました。

■地方	九州地方
■都道府県	熊本県
■郡	上益城郡
■面積	544.67km ²
■総人口	12,887人
■町の木	もみじ(イロハモミジ)
■町の花	カタクリ
■町の鳥	オオルリ

山都町(やまとちょう)は、熊本県東部にある町。2005年(平成17年)2月11日に上益城郡矢部町、清和村、阿蘇郡蘇陽町が合併して誕生した。熊本県下ではあさぎり町、水川町とともに「まち」でなく「ちょう」と読む数少ない町である。上益城郡に属している。

江戸中期から約260年の歴史を持ち、豊作祈願と商売繁盛を願う山都町最大のお祭りとして、県内外から毎年たくさんの方が訪れる「大造り物」の引き廻しで知られる「八朔祭」をはじめ、勇壮な「裸みこし」で知られる「火伏地蔵祭」、文楽を楽しめる「清和文楽の里まつり」など、山都三大祭が開催されています。

町の概要

山都町は、九州のほぼ中央にあり、世界最大級の阿蘇カルデラ南外輪山の南麓(二帯と、九州中央山地に接しています。町の標高は、200m〜1700mに位置しており、標高300m〜900mにある居住域は、平野部よりも平均気温が4度ほど低い準高冷地の気候が特徴です。九州中央山地は、熊本県と宮崎県の県境に国見岳や市房山など標高1700m級の山々が連なり、国定公園の指定を受けています。九州脊梁山地とも呼ばれ、多くの登山家を魅了している場所でもあります。

一級河川である緑川、五ヶ瀬川は町内の山間部にある水源を源流とし、分水嶺を境にそれぞれ東西に流れています。右岸の南外輪山の準高冷地帯と左岸の九州脊梁山地は、阿蘇カルデラが形成されるときに噴出された火砕流堆積物に覆われている台地で形成されています。火砕流堆積物は、浸食作用に弱いため溪谷が形成されやすく、町内には紅葉の美しい景勝地として有名な蘇陽

峽、緑仙峽、内大臣峽などがあります。また、川の急な崖にはしばしば滝が形成され、五老ヶ滝(ごろうがたき)、鶉の子滝(うこのたき)、聖滝(ひじりたき)などの美しい滝が多く点在しています。

山都町は、有機農業全国No.1の町。有機農業の歴史は、1970年代から始まり、1970年代から始まり、冷涼な気候と寒暖差、そして山々からの清らかな水と、阿蘇山の火山灰を含んだミネラル豊富な土壌がおいしい野菜を育てます。今や有機JAS認証事業者数は全国で一番多く、年間を通してたくさん種類の野菜やお米を育てています。ここでは、有機農業は特別ではなく当たり前の農業として親しまれています。また、全国から有機農業を志す移住者が年々増えており、先代からの想いと技術は、人々の健康と山都町の土壌を守りながら、次世代の担い手たちへと受け継がれています。



清和文楽

とは



清和文楽は熊本県山都町の清和地区で郷土芸能として受け継がれている農村芸能であり、江戸時代の末（嘉永年間一八四八年から一八五三年まで）、淡路の人形浄瑠璃一座から伝えられ、浄瑠璃の好きな村人たちが、農作業の合間に習い覚えて春の祈願、秋の願成のお祭りに自ら奉納を始めたのが興りと言われています。

以来、豊作の願いと、日々の安らかな暮らしへの感謝の思いを込めながら、神社や、清和地区の田畑の中の特設舞台上で上演が行われてきました。

明治の終わりには一時衰退をしましたが、昭和に入り天皇即位をきっかけに復興、座を結成し、昭和35年には熊本県重要無形文化財の指定を受けました。現在も清和文楽館をはじめ、全国各地（海外公演もあり）で公演を行ない、多くの方々に楽しまれています。



大川阿蘇神社



絵本太功記



清和文楽文楽館HP



人形浄瑠璃「清和文楽」の活動について

清和文楽人形芝居保存会 会長 片山勇次

本日は、第35回民俗芸能と農村生活を考える会「清和文楽公演」にご来場いただきましてありがとうございます。

国立文楽劇場という大きな舞台上で清和文楽を公演させていただくことは皆さまのご支援とご協力の賜と深く感謝申し上げます。

清和文楽は、江戸時代嘉永年間、淡路の人形遣いの座が当地を訪れ、地元の人形浄瑠璃好きな村人が習い覚えたのが始まりと言われています。

日々の暮らしに感謝し神社の農村舞台で豊作を祈る春の祈願、収穫に感謝する秋の願成のお祭りで上演され、今日まで伝承された現在熊本県に唯一残る人形浄瑠璃です。

熊本県の重要無形文化財である清和文楽は農村芸能として連綿と受け継がれてきました。清和文楽人形芝居保存会員は、米・あか牛・トマト・椎茸・野菜等、農業を生業としている農業者です。

現在は保存会10名と清和文楽館職員と共同で公演をしております。平成4年に清和文楽館ができ、年間150回程の公演を行っています。また、国内各地での公演や、アイルランド・イタリヤ・ギリシヤ等でも上演する機会をいただきました。

古典演目は、「絵本太功記」「神霊矢口渡」「傾城阿波鳴門」「壺坂靈験記」「日高川入相花王」等、清和文楽オリジナルの新作は熊本出身の漫画家尾田栄一郎氏の人気漫画「ONE PIECE」ドラマ王国編を原作にした「超駈鹿船出冬桜」、熊本縁の妖怪アマビエをモチーフとした「肥後アマビエ戀歌異聞」、そして本日上演します「雪おんな」は、熊本に縁のある小泉八雲の作品を平成15年に脚本半藤利氏・演奏指導豊竹嶋太夫師・作曲鶴澤清介師により制作されました。

本日の公演を出演者・関係者一同大変楽しみにしております。多くの出会いに感謝し農村民俗芸能「清和文楽」を大切に後世へ繋いで参ります。

そして皆さま、是非熊本県山都町へおいで下さい。本町には、通潤橋（国宝）があります。この橋は四方を河川に囲まれた台地に農業用水を送るために建設された近世最大級の石造アーチ水路橋で、現在も約100haの水田を潤しています。また有機JAS認証事業者数が全国最多の「有機農業全国No.1のまち」です。

本日も来場いただきました皆さま、一般社団法人全国農協観光協会さま、本公演の実施にご尽力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

そして全国の民俗芸能の更なる発展を祈念いたします。日々の暮らしに感謝し五穀豊穰と皆さまのご多幸を祈り「寿式三番叟」「雪おんな」を上演させていただきます。



雪おんな



雪おんな

物語のあらすじ

若い木こり巳之吉は、年老いた茂作と薪木取りからの帰り道、吹雪にあいます。たどり着いた船頭小屋で、茂作は「雪おんな」の言い伝えを巳之吉に話します。いつしか眠りにつく二人ですが、茂作に覆いかぶさった真っ白い着物の女性に巳之吉が気付きます。その女は「私を見たことを他人に話したらならば殺す」と巳之吉に言い渡し、雪の中に消えていきます。茂作はすでに息絶えていて、あまりの恐ろしさに巳之吉は気を失います。

数年後、巳之吉は、山仕事の帰り道で偶然出会ったお雪という娘と結ばれます。色白で気立てもよく、娘が生まれた後も、その美しさは変わりませんでした。互いに思いやる日々の中、ある日、巳之吉は土産にと赤い櫛を買ってきます。髪にさし、更に色香を増すお雪の姿を見ているうちに、巳之吉は吹雪の夜に出会った雪おんなの顔を思い出します。お雪の顔は、雪おんなとより二つでした。その夜の話を聞かせてとせがむお雪に、巳之吉は重い口を開きます。眼光鋭く雪おんなへと変化したお雪。一度は巳之吉に襲いかかるものの、母としての情にほだされて、娘の養育をきつく言い置くと、お雪は降る雪の中に消えていったのでした。

【雪おんな】登場人物

- 雪おんな 雪のように白く美しいがその姿を見たものは命を奪われると恐れられている。
- 巳之吉 若い木こり。船頭小屋で雪おんなを見てしまう。山で出会ったお雪と夫婦になる。
- 茂作 年老いた木こり。薪木をとるため巳之吉と山を訪れ吹雪に遭ってしまう。
- お雪 雪おんなの化身。巳之吉と出会い恋に落ち結婚しお君をもうける。
- お君 巳之吉とお雪の間に生まれた子とも。
- 船頭 河原の船頭小屋の主。

【雪おんな】解説

「雪おんな」は「むじな」に続く清和文楽オリジナルの作品です。熊本に縁のある小泉八雲原作、脚色を半藤一利氏、総合演出を豊竹嶋大夫氏、作曲を鶴澤清介氏。清和文楽がプロである彼らの指導を直接受けた初の試みとなりました。多くのスタッフに支えられ完成した、清和文楽オリジナルの作品です。これから永遠に受け継がれていくことでしょう。

- 原作：小泉 八雲
- 脚色：半藤 一利
- 演奏指導：豊竹嶋大夫
- 作曲：鶴澤 清介



巳之吉とお雪



雪おんな



お雪



お雪



お君

寿式三番叟

ことぶき
しきさんばそう



©尾田栄一郎 / 集英社
©清和文楽新作制作事業実行委員会



ONE PIECE
熊本復興
プロジェクト
特設サイト

「ONE PIECE熊本復興プロジェクト」の一環として
熊本県出身の尾田栄一郎氏の人気漫画『ONE
PIECE』の「ドラム王国(冬島)編」が人形浄瑠璃
「清和文楽」で描かれます。

モンキー・D・ルフィ



寿式三番叟



人形浄瑠璃 清和文楽

ONE PIECE

超劇 冬島 船出

ちよっぱあふなでのふゆさくら
Chopper, embarking from the winter sakura



Dr.くれば



寿式三番叟かしら



人間国宝
豊竹嶋太夫寄贈
見台

上演する内容は、「おおさへおおさへ、おう悦びありや悦びありや…」の浄瑠璃にあわせて賑やかに三番叟が登場します。三番叟の舞いの始まりです。五穀豊穡、子孫繁栄を願う賑やかな鈴の段となり、三番叟が鈴を振りながら種をまく仕草をして舞台四方を巡り歩くうちに、次第に曲も激しさを増して来ます。三番叟の一人が息切れを起こして舞台の隅っこで汗を拭いてさぼったり、それを見つけたもう一人が早く続きをやれとせきたてます。茶目っ気もちりばめられ、笑いを誘う場面もありますが無事に舞い納めます。

短い上演時間ですが、二人の三番叟が舞台を清め、本日も来場のお客様のご多幸をお祈りいたします。

本来の寿式三番叟は1時間以上かかる曲ですが、清和文楽ではこの中から、三番叟のみが登場する「鈴の段」と呼ばれる最も賑やかな場面上演します。

能楽の「翁」を人形浄瑠璃に移したもので、邦楽各流の三番叟ものの中でも祝儀曲として舞台開きや祝賀の際に演じられ、人気のある名曲です。能楽を意識した義太夫の荘厳な演奏のもと、翁の天下泰平、国土安穩の舞、鮮やかな千歳の舞に続いて二人の三番叟が登場し一転躍動的となった義太夫に合わせて舞います。

【寿式三番叟】

ことぶきしきさんばそう



清和文楽人形芝居保存会
清和文楽館のみなさん